

研究所だより

第134号 令和6年11月

発行：草津市立教育研究所

「ねらい」と「願い」を込めた授業づくり ～ウェルビーイングを目指して～

学校教育課 課長 西田 和弘

日頃から子どもと真摯に誠実に向き合い、「こどもまんなか」の教育活動を実践していただいていることに、まずもって感謝、御礼申し上げます。ありがとうございます。

一方で、頑張りすぎず、悩み事を決して一人で抱え込まないようにして、心身の健康に十分にご留意ください。

ところで、放課後、職員室でにぎやかに会話されていますか。私自身は、子どもの素敵な行動やかわいらしい様子、気になる姿等の情報交換をしたり、授業について語りあったり、また時には愚痴や弱音を吐いて「助けてほしい」と相談したり、そんな風に周りの先生方を信じていろいろな会話をしてきました。私は、職員室は静かな職場でなくていいと思います。たくさんの会話の中に「ありがとう」と笑い声が響く職員室にして、先生方が気心の知れた居心地のいい仲間であっていただきたいと願っています。

さて、この秋、多くの小中学校で授業公開の機会がありました。小学校では、児童たちが高齢者向けの体操を考案し、見つけた課題を解決しようと真剣に話し合った授業や、低学年児童が友だちと一緒に紙コップを積み上げて夢中になって造形遊びをした授業等、子どもが思いを持ち、仲間とともに一生懸命に学ぶ姿に出会いました。また中学校では、参観者が生徒の話し合いや授業者の奮闘を目の当たりにして涙し、授業終了後に教室が自然と拍手に包まれた授業がありました。いずれも子どもも授業者も授業が楽しかったに違いありません。

その前提として、授業者は周りの先生方と話し、地域や外部の方々とも話す中で、子どもの実態をしっかりと捉え、教材の値打ちを十分に理解し、どう指導支援するか、展望を鮮明に描いておられたのだと思います。加えて、教科等の「ねらい」とともに、子どもにこう成長してほしいという「願い」を持ち、その両方を授業に込めておられたことでしょうか。昔から「教師は授業で勝負する」と言われてきました。子ども一人一人の「わかる・できる」を目標とするにとどまらず、学校生活の大半を占める授業の中でこそ、子どもたちが互いにつながり、一人ではできない成長ができる居心地のいい学級をつくろうと手を尽くしてきたからではないでしょうか。「願い」を込めた授業づくりは、子どもと教員のウェルビーイングに繋がる近道だと思います。

本市では今年度から「スクール ESD くさつプロジェクト」を全小中学校で取り組み始めました。ESDの実践では、子どもが地域にある課題に対して、その解決策を考え、発信・行動することを大切に考えています。ESDの授業でも、教師が「ねらい」と「願い」を込め、子どもに社会や人の役に立てたことに「楽しい」や「うれしい」を味わわせたいと思います。ESDの学びで、子どもはもとより、教師、地域の方々のウェルビーイングを実現していく、そんな温かい教育実践が展開されることに期待をしています。

スキルアップ支援事業

第4回スキルアップ 主体的・対話的で深い学びの授業実践が次々と…

10月から、スキルアップ支援事業（授業・学級づくり）では、対象の先生方による研究授業を進めています。先生方は、日々教育の難しさと向き合いながらも、個別最適な授業のあり方やこれから求められる教育の実現をめざし、それぞれの課題をご自身の“授業改善のめあて”に落とし込んで研究授業に臨んでくださっています。

その意欲的な姿は頼もしく、そこで見られる創意工夫、試行錯誤の経験はこれからの草津市の学校教育、草津市の子どもたちのために大変貴重なものになるでしょう。

また学校により、学年や教科の先生方、あるいは校内 OJT 研修の一環として積極的に関わっていただくことで、対象の先生のスキルアップだけでなく、当該の学校全体の教育力、学校力の向上にもつながっていることも実感しています。



(小)第1学年算数科『くりさがりのひきざん』

【タブレットで考え方を交流する学習】

これまで学習したように簡単にできないひき算の式に出会い、どのように考えたら今までのように簡単に計算できるのか考えました。タブレット上でブロックを使ったり図を描いたりして考えたことをロイロノートで提出し、自分とは違う考え方の人を見つけて自由に意見交流をし、学びを深めていきました。

(中)第1学年理科『赤ワインからエタノールを抽出』

【実験レポートをロイロノートで作成する】

エタノールを含む水溶液を加熱して状態変化と温度との関係を観察し、結果をタブレット上のグラフに直接書き込んでいきました。この後、結果や考察についてもロイロノートで作成・提出する計画です。より効果的な観察・実験のあり方や思考の深まりとともに、教師の評価の仕方にもどのようなメリットがあるのかも、合わせて研究を進めておられます。

ICTスキルアップ



ICT学校研修会

さらなる利活用をめざして

8月から10月にかけての学校支援では、多くの学校でロイロノートの「シンキングツール」や「共有ノート」「図形や画像の取り込み」などの研修を実施しました。短時間の研修でしたが、スキルアップをめざす先生方の熱意が伝わってきました。研修で使ったカードは、ロイロノート資料箱の「草津市先生のみ」に入っていますので利用してください。

ICT活用支援

活用支援は第4回の授業支援が始まっています。先生方も子どもたちもタブレットの操作に慣れてきましたので、ロイロノートのより効果的な使い方やタブレットの良さを発揮できる授業づくりに取り組んでいます。



第2回草津市教職員自己啓発講座（教育相談）

不登校の子どもたちとその保護者の思いを考える



11月1日(金)NPO法人 Since 代表 麻生 知宏 さん

麻生さんの経験から考える不登校

“不登校”についての考え方

不登校と聞いて、みなさんはどんなことを思い浮かべますか。

マイナスなイメージを持つ人も多いのではないのでしょうか。不登校になっている子どもは学校に行けないことに自分を責めていることが多いようです。だからこそ周りの大人がマイナスなイメージを持つのではなく、その子をどのように捉え、どのようにはたらきかけるかを考えていきたい。



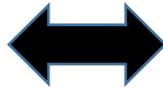
「不登校＝はじまり」と捉えたい

不登校になったことで、今まで見えていなかったことが見えてくることもある。不登校になったことですべてがマイナスにはたらくわけではない。子どもたちに不登校についての前向きな価値づけをしてあげたい。

フリースクールの必要性について考える

○これまでの教育システムと時代の要請のずれ。

これまでの教育システム
カリキュラムに沿って、マニュアルに忠実な人材を育てる。



時代の要請
柔軟な発想があり、クリエイティブな人材を求める。

- 高校進学率の飽和状態・・・公立高校、私立高校、通信制高校など、選択肢の多様化
- 高校卒業認定試験の導入（2005年）



学校という場に固執する必要性の低下

学校外で学べる場が必要。公的な教育支援センターや民間のフリースクールなど。しかしまだまだ学校外で学べる場の基盤が整っていないという課題もある。学校外での学びの場を活用しながら、学校復帰、社会的自立へつなげていきたい。

フリースクール「Since」の活動内容

「Since」での活動

- ・スタディサポート・・・学力保障。様々な検定を受けて、自信をつけさせたい。また座学にとらわれず、工
作や実験なども積極的に行う。
- ・体験学習・・・地域と連携した様々な体験をする。
- ・探究・・・自分の“好き”をつきつめる。プログラミングや料理など。
- ・実践・・・社会に実際に飛びだしてみる。講演会に参加する、地域を巻き込んだハロウィンパーティー
など。

学校復帰
社会的自立を目指す

参加者の感想 満足度 ★★★★★…4名

不登校児童生徒と日々フリースクールで活動されていること、行政による取り組みや保護者の皆さんの葛藤の中で子どもたちのことを一番に考えながら生活されている貴重な体験などを聞かせていただき感動いたしました。ありがとうございました。



第2回草津市教職員自己啓発講座（教育相談）

楽しく学ぶ!消費者教育

11月12日（火）草津市消費生活センター

吉田 万里 さん、荒山 美佐枝 さん



消費生活センターの大きな役割

☆みなさんは消費生活センターを御存じでしょうか？

まだ認知度が低く、中学3年生に聞いても知られていない状況である。もっと認知される必要がある。消費生活の中で起こったトラブルは、消費者と事業者の間で起こるものがほとんどであり、情報の量から見ると圧倒的に消費者の方が少ない傾向にあり、そのようなトラブルがあったときには、消費生活センターを頼ることができることを知ってほしい。

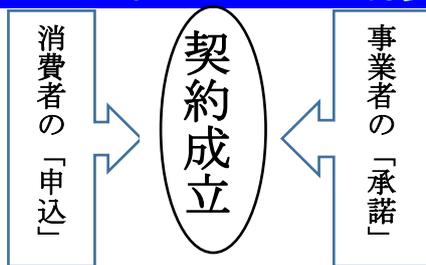
消費生活センターに2つの大きな役割

- 消費生活の中で起こったトラブルに対する相談
- 消費生活を円滑に進めていくためのトラブルの未然防止

子どもの時から教えていくことが大切。いざ、18歳を迎え、クレジットカードなどを持った時に上手に使いこなせるようにしていかななくてはならない。

消費者教育はとても重要

インターネットによる消費者トラブル



消費者の「申込」と事業者の「承諾」の意思表示が合致すれば、契約（買い物）は成立する。契約書は契約を交わした証のようなもので、契約書があるから契約したわけではない。

一度契約が成立すると、基本的には一方の都合だけでは解約できない。

令和4年4月1日～ 未成年者取消が
18歳未満に引き下げられる
インターネットでは「未成年ではありません」に
チェックすれば、契約（買い物）ができてしまう。

<解約が可能となるケース>

- 未成年者取消（18歳未満）
- 保険業法、宅地建物取引業法に関するもの
- 特定商取引法に引っ掛かるもの

学生に多いインターネットのトラブル

- ・ゲームによる課金等、ネットショッピング、転売トラブル、ID、パスワードの漏洩、SNS、高収入求人によるトラブル等

<実際にあった事例>

子どもが親のスマホの顔認証を勝手に変更し、ゲームで約180万円分の課金をしてしまう。消費生活センターに相談に来られ、未成年者取消を要求したが、親がスマホ使用の許可（課金は許可していない）をしていたため、認められなかった。

- トラブルの未然防止
（家庭でのルール、クレジットの紐づけしない等）
- 消費者教育の重要性

参加者の感想 満足度 ★★★★★…2名

今年度はじめて消費者教育を家庭科で行うので、どのように子どもたちに伝えたらいいのか不安な面もあったので、今回の研修ですごく勉強になりました。成人年齢が引き下げられ、子どもたちにとってクレジットカードや QR コード決済が身近なものになっていることや、正しい知識を早いうちから持つておくべきだと改めて感じました。

SSW 通信

周りにこんな子いませんか？

林野佑亮

みなさん知っていましたか？毎年11月は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」として、虐待を防止していく月間です。「虐待」と言っても、身体的虐待や性的虐待、ネグレクト、心理的虐待など、様々な種類がありますが、今回は、「ネグレクト」について皆さんに紹介したいと思います。

ネグレクトに関する相談件数は、年々増加している傾向にあり、みなさんの周りにもきっといるはずで
す。少し注意して目を向けてみてください。

○毎日、同じ服を着ている、なんだか少し臭うような気がする、身長・体重が周りとは比べて低い（伸びていない）等

➡ **身体的ネグレクト**…親が衣食住を適切に与えないネグレクト



○人との距離が極端に近い、無気力、無関心、暴力的等

➡ **情緒的ネグレクト**…愛情を与えない、関心を示さないネグレクト



○むし歯が多い、治療が必要なけがや病気が見られる等

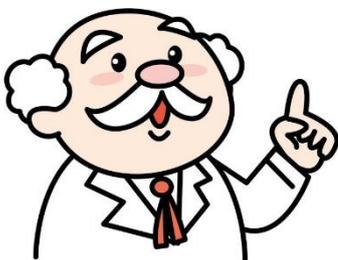
➡ **医療的ネグレクト**…病院への受診や健康ケアを行わないネグレクト



○遅刻が多い、欠席が多い、学力が定着していかない等

➡ **教育的ネグレクト**…学校に行かせない、学習をさせないネグレクト

“ネグレクト”と言っても、様々な種類、症状があります。どのネグレクトも虐待です。子どもたちを守っていくために、どんな些細な変化にも気づき、声をかけてあげたいですね。もし「なんだか最近、様子がおかしいな。」と感じたら、周りの先生や SSW に相談し、共通理解、アセスメントをした上で、通告してください。学校の先生には、日常的に子どもたちと接する機会が多く、変化に気づきやすい立場にあることから、早期発見努力義務・早期通告義務があります。先生たちの早い段階での気づきで子どもたちを救うことができます。もしくは児童相談所虐待対応ダイヤル「189」（イチハヤク）にかけて、相談することもできます。もちろん電話した人の個人情報、電話の内容に関する秘密は守られます。「もし違ったらどうしよう」「児童虐待かもしれないけど、確信が持てない…」と思ってしまうかもしれませんが、電話した者が虐待かどうかを判断するのではなく、児童相談所が判断してくれます。勇気をもって電話してみてください。子どもたちを守るためにも、子どもたちと関わる私たちがしっかりと様子を見守ってあげたいですね。





やまびこだより

湖南SSN(スクーリング・サポート・ネットワーク)

ふれあい体験から



湖南4市(栗東、守山、野洲、草津)の各教育支援センターに通う子どもたちや保護者、指導員の交流を深めることを目的としたSSN(スクーリング・サポート・ネットワーク)では、年に一度、子ども達の交流事業が行われます。今年度は11月7日(木)に野洲市のふれあい教育相談センターで実施されました。本市の両教室(青地教室、上笠教室)からも合わせて13人の子どもたちが、この交流事業に参加しました。午前中はガラススタイルを使ったマグネットの制作、午後はポッチャ競技をチーム対抗で行い、他市の友達と一緒に楽しい時間を過ごしました。



まずは安心できる空間を！ やまびこ教室へ

不登校の子どもたちの多くが、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校出来ない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれている子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。

やまびこ教室では、子どもたちの面談や小集団での活動を実施しています。指導員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教室をご紹介ください。先生方からのご相談もお待ちしています。

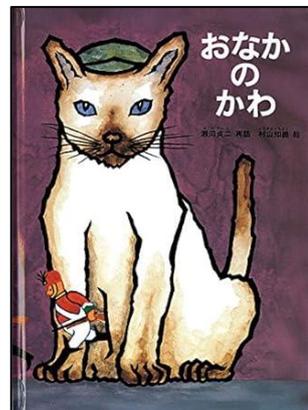
シリーズ 司書さんおすすめの絵本



「おなかのかわ」 瀬田 貞二／再話 村山 知義／絵（福音館書店）

ある時、ねことおうむはお互いの家でごちそうし合う約束をしました。けちなねことは反対に、おうむは心づくしのごちそうでねこをもてなします。ねこはごちそうをすっかりたいらげると、それだけでは満足せず、しまいにはおうむまで飲み込んでしまうのでした。

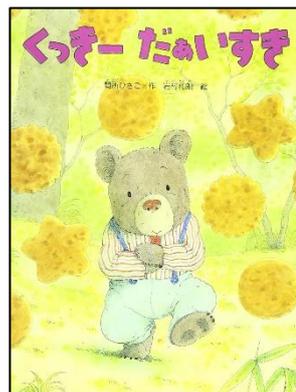
ねこのおなかがどうなるのかハラハラした後、痛快な結末にほっとする、くりかえしが楽しい物語です。おはなしの世界をぐんと広げる絵も見所なので、ぜひおなかの中の様子を一緒に確かめながら、楽しんでもらいたいです。



「くっきーだあいすき」 間所 ひさこ／作 岩村 和朗／絵（金の星社）

こぐまのむっくは、お母さんが焼いてくれたクッキーに大喜び。お友だちにも分けてあげたら？と言われて森へ向かいますが、おいしいクッキーをあげるのが惜しくなったむっくは、なんとなくみんなに言い出せません。そこへなかよしの友達みみーがやって来て、むっくにつみたてのいちごを分けてくれます。

みんなと分け合って食べるクッキーの味が特別だと感じたむっくのように、子どもたちは主人公の成長を自分のことのように受け取ることができるでしょう。



「まいごのどんぐり」 松成 真理子／作（童心社）

コウくんのお誕生日ケーキに飾られていたどんぐりは、「ケーキ」と名付けられて、その日からいつもコウくんといっしょでした。ところが、ある秋の日、どんぐり拾いに夢中のコウくんは、うっかり「ケーキ」を落としてしまいます。まいごになったどんぐり。やがていくつもの年月が流れ、ふたりは共に大きくなっていきます。

ページのあちこちから、「ケーキ」はコウくんを見守り続けます。離れていても、お互いを忘れずにいたふたりの結末を是非読んで確かめてほしいです。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

